

## スポーツ健康指導研究科 履修モデルと研究計画

### ■ 教育方法

本研究科の教育方法の特色の一つとして、スポーツを通じた健康の維持・増進、主として高齢者の健康の維持・増進および子どもの体力向上に寄与できるスポーツ健康指導者の養成を行うために、専門性の高い理論の修得と実践能力の向上を関連させて学修するカリキュラム体系となっている。例えば、『身体運動機能特論』、『運動発達特論』、『コーチング特論』および『体力評価演習』等にて学修した身体構造と運動機能の発達変化や指導理論および指導技法と、地域連携事業型の演習科目である『ジュニアスポーツ演習』と関連付ける。またさらに、『健康社会学特論』、『健康運動学特論』および『身体運動指導演習』等にて学修した健康社会、身体機能の老化、指導理論および指導技法と『高齢者スポーツ演習』と関連付ける。

本研究科のカリキュラムは、学生個々人の向上目的である専門性および実践能力、社会人の入学生を想定した春秋入学および昼夜開講制に対応した、柔軟な構成となっている。この構成の中で科目選択が適切に行えるよう、指導担当教員は、学生と個別相談を重ね、適切に指導する。

### ■ 履修モデル

本研究科の標準修業年限は2年とし、下記に本研究科の履修モデルを示す(図1)。春期入学者としては、入学直後のⅠ期は前期、Ⅱ期は後期にあたる。秋期入学者としては、Ⅰ期は後期、Ⅱ期は前期にあたる。開講科目の内、「スポーツ健康基本科目」および「スポーツ健康指導科目」では、各授業科目で前期あるいは後期に1コマ配置する。「研究指導演習科目」では、春秋入学生のいずれにも、「スポーツ健康テーマ演習Ⅰ」、「スポーツ健康テーマ演習Ⅱ」、「課題研究Ⅰ」、「課題研究Ⅱ」と系統立てて行うため、前期および後期に1コマずつ配置する。春期入学生および秋期入学生に対し、履修計画と研究計画が円滑に行えるよう、それぞれ入学ガイダンスを実施し、入学時期にあわせた教育課程表と履修モデルを呈示するとともに、スポーツ指導者、健康運動指導者、専修免許を有する保健体育教諭および研究者を目指す進路ごとに履修モデルを呈示する。ガイダンス後、指導担当教員は、学生個々の授業計画、研究計画および希

望進路にもとづいて、全体のカリキュラムマップを概観した上で学習・研究活動が有意義となるよう履修指導および研究指導を行う（図 2）。特に、社会人入学生では、3～4年の長期履修制度を活用した履修モデルも呈示する。

履修モデル(春期入学者)		必修科目● 選択科目○				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	1年次		2年次	
		単位	I 期	II 期	III 期	IV 期
スポーツ健康基本科目	健康社会学特論	2	●			
	人体構造学特論	2		●		
	身体運動機能特論	2		●		
	健康運動学特論	2		○		
	運動発達特論	2	○			
	(小計5科目)	(小計10単位)				
スポーツ健康指導科目	コーチング特論	2	●			
	健康教育特論	2		●		
	身体運動指導演習	2	○			
	キャリア形成特論	2		○		
	高齢者スポーツ演習	2		○		
	運動技術演習	2			○	
(小計6科目)	(小計12単位)					
研究指導演習科目	スポーツ健康テーマ演習 I	2	●			
	スポーツ健康テーマ演習 II	2		●		
	課題研究 I	2			●	
	課題研究 II	2				●
	(小計 4科目)	(小計8単位)				
	合計 (15科目)	合計30単位	小計10単位	小計14単位	小計4単位	小計2単位

図 1 履修モデル (春期入学者)

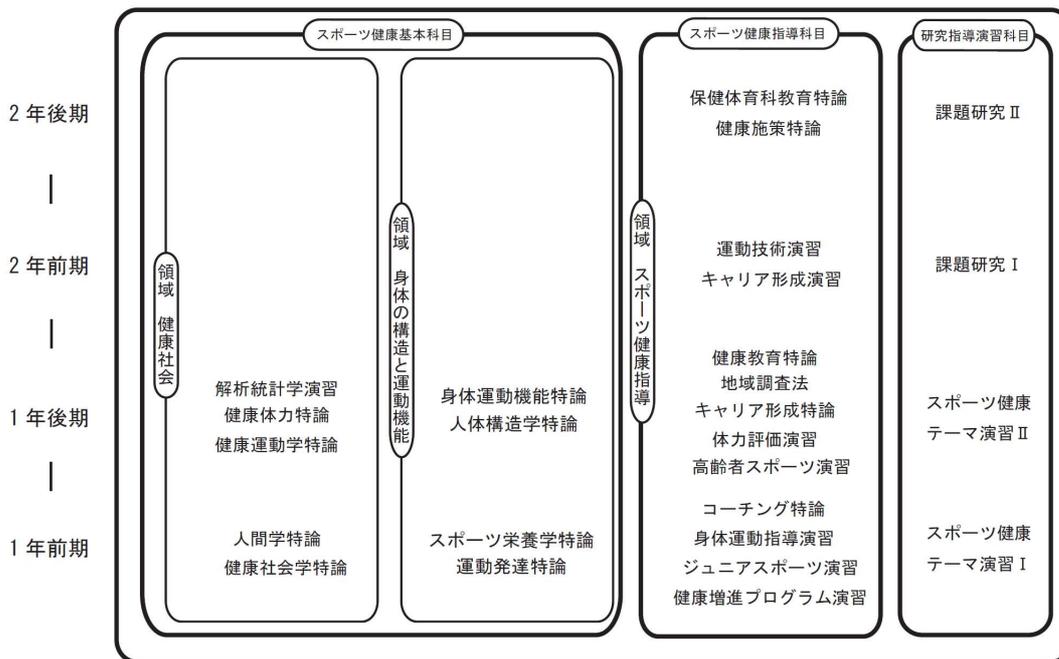


図2 カリキュラムマップ

## ■ 研究計画

課題研究成果としての課題研究論文の作成は、指導担当教員と学生とが個別面談を頻繁に行い実施する。課題研究論文提出後の課題研究論文の審査および成績評価については、後で述べるように、課題研究論文審査委員会のもと行う。春期入学者の場合、1年次4月において、ガイダンスにおける履修モデルの説明およびその後の研究指導者からの助言をもとに、研究計画および進路に沿った履修計画書を提出する。その後、課題研究論文の研究テーマの着想が促されるよう、研究指導演習科目である「スポーツ健康テーマ演習」は、通年で開講し、各研究指導教員がオムニバスで担当する。1年次の2月には、課題研究論文作成のための研究計画の中間報告会を行い、課題研究論文の研究計画書を作成する。2年次の4月には、研究計画にもとづき課題研究論文作成に着手する。7月には、課題研究論文の研究内容の中間報告会を行い、10月には、課題研究論文の題目の最終決定を行う。1月上旬には、課題研究論文の提出を行う。2月には、課題研究論文発表会・審査・成績確定を行う。このようなスケジュールによって、課題研究論文の質の保証を図る（図3）。

## ■ 課題研究論文の審査

①課題研究論文審査委員会の設置：課題研究論文を審査するための機関とし

て、研究科長を委員長とする課題研究論文審査委員会を研究科内に設置する。委員長は、提出された課題研究論文毎に、課題研究を担当する専任教員から審査委員 2 名を選出する。当該学生の研究指導者以外の委員 1 名を主査とし、研究指導者を副査とする。

②審査方法：所定の期日までに提出された課題研究論文を評価する。評価項目は、研究の独自性、構成力および表現力とする。さらに、面接審査を行い、その内容を問う。

③審査結果：課題研究論文の審査結果は合格、不合格あるいは再提出とする。

④再提出：課題研究論文に不備がある場合には、再提出とすることがある。再提出は、指摘された問題点を修正し、2 週間以内に行うものとする。再提出された課題研究論文は通常の課題研究論文審査方法に準じて評価される。

#### ■ 修了要件

本研究科に 2 年以上在学し、必修科目 18 単位（スポーツ健康テーマ演習および課題研究の研究指導演習科目 8 単位を含む）、選択科目から 12 単位以上の合計 30 単位以上を修得しなければならない。さらに課題研究論文審査に合格しなければならない。

##### 【1 年次】

- ・ 4 月上旬 履修計画書の提出
- ・ 4 月上旬～2 月 スポーツ健康テーマ研究 I および II を通じた研究テーマの着想
- ・ 2 月 研究計画中間報告会と課題研究論文の研究計画書の作成

##### 【2 年次】

- ・ 4 月 課題研究を通じた課題研究論文作成の着手
- ・ 7 月 課題研究論文の研究内容の中間報告
- ・ 10 月 課題研究論文の題目の最終決定
- ・ 1 月上旬 課題研究論文の提出  
(課題研究論文審査委員会の設置、主査・副査の決定)  
(課題研究論文の意義と問題点の整理)
- ・ 2 月 課題研究論文発表会・審査・成績確定
- ・ 3 月 学位授与

(図 3 履修計画および 課題研究論文の作成等のスケジュール)